

6.新居浜港の課題

6.1 物流・産業における課題

6.2 環境・エネルギーにおける課題

6.3 観光・交流における課題

6.4 防災・維持管理における課題

6. 新居浜港の課題

2～5章で整理した内容や各事業者の声を受けて、港湾が果たす役割である4つの視点「物流・産業」「環境・エネルギー」「観光・交流」「防災・維持管理」ごとに課題を整理した。

表 6.1 新居浜港の課題と概要

港湾の役割	課題	
物流・産業	課題①	船舶大型化や貨物需要増大に対応した港湾機能の不足
	課題②	モーダルシフトの進展に対応した港湾機能の不足
	課題③	港湾物流ネットワークの連携不足
	課題④	産業構造の変化への対応
	課題⑤	港湾物流倉庫や企業誘致のための産業用地の不足
	課題⑥	デジタル技術の活用への対応
	課題⑦	港湾労働者不足や労働環境の改善への対応
環境・エネルギー	課題⑧	脱炭素社会の実現に向けた次世代エネルギーへの転換・拡大への対応
	課題⑨	豊かな自然環境と産業との両立
観光・交流	課題⑩	自然・産業・歴史の地域資源を活用した賑わいの創出
	課題⑪	地元住民を中心とした来訪者の多様なニーズへの対応
	課題⑫	国内外の観光需要に対応するための受入環境の整備
防災・維持管理	課題⑬	切迫する大規模自然災害や気候変動への対応
	課題⑭	港湾施設の老朽化・陳腐化への対応

6.1 物流・産業における課題

(1) 【課題①】船舶大型化や貨物需要増大に対応した港湾機能の不足

◆背景

- 新居浜港には非鉄金属や化学、機械工業等の工場が多く集積しており、四国有数の臨海工業都市として発展してきた。
- 近年船舶の大型化が徐々に進んでいる中で、大型船に対応した大水深岸壁が不足している。また、荷役設備の機能不足の声も上がっている。
- 荷役施設の効率性や瀬戸内海における地理的制約による入港制限等がある。

◆課題

- 新居浜市や周辺地域が今後発展していくには、港湾の貨物取扱能力の向上により新居浜港で荷役されることが必要不可欠である。
- 本港・内港地区では、住友化学菊本第6岸壁を除いて水深10m以上の岸壁が整備されておらず、大型外航船の入港が困難で喫水調整等に対応している。また、東港地区でも水深7.5mを超える岸壁が整備されておらず、大型船の円滑な入港に支障が生じている。
- 本港地区をはじめとした各地区で荷役機械の機能も不足している。

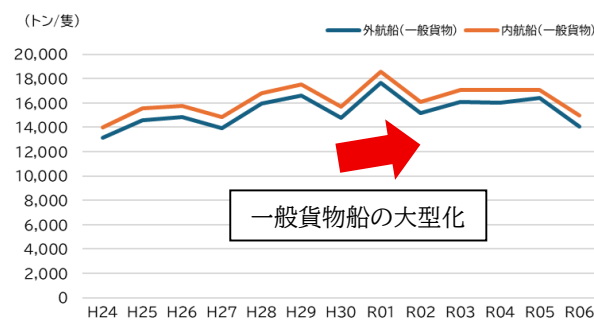
大型外航船に対応した
大水深岸壁の不足



大型船に対応した大水深岸壁の不足
(現状の最大水深は 7.5m)



図 6.1 本港地区・内港地区（左）、東港地区・黒島地区の課題



出典：新居浜港務局「新居浜港港湾統計」

図 6.2 一般貨物船の隻数当たりトン数

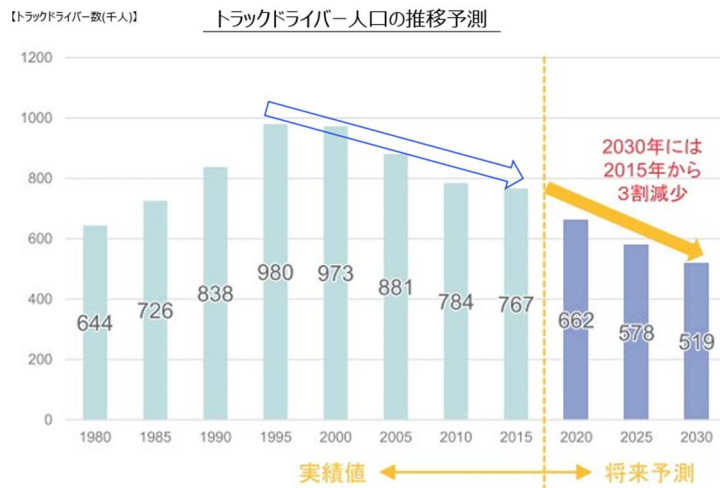
(2) 【課題②】モーダルシフトの進展に対応した港湾機能の不足

◆背景

- ・労働人口減少や高齢化に伴い、トラックドライバー不足が進展し、陸上輸送能力が低下している。
- ・トラックドライバー不足の影響で陸上輸送から海上輸送へのモーダルシフトのニーズが高まる中で、フェリー貨物を取り扱う垣生岸壁の背後用地は不足しているという声が聞かれる。

◆課題

- ・今後、海上輸送の需要増加が見込まれる中で、内航貨物の取扱機能の拡充に向けた整備が必要。
- ・新たにRORO船航路を誘致するための岸壁及び背後用地が整備されていない。
- ・現在のフェリー岸壁(垣生第1岸壁)は延長が不足しており、将来の貨物需要の増加に伴う船舶大型化への対応が困難である。
- ・シャーシ・コンテナなどのフェリー貨物を仮置きするための背後用地が不足している。
- ・コンテナ船航路の船舶大型化に対応した岸壁が整備されていない。



出典:経済産業省『物流の2024年問題』等に対応した物流効率化推進に関する調査研究 調査報告書

図 6.3 トラックドライバー人口の将来予測

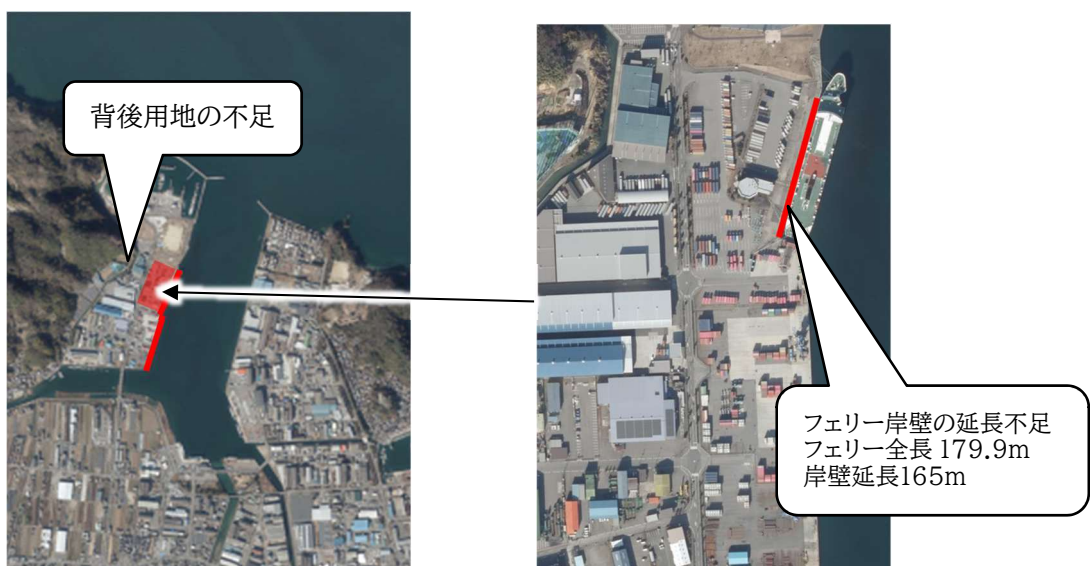


図 6.4 東港地区に関する課題

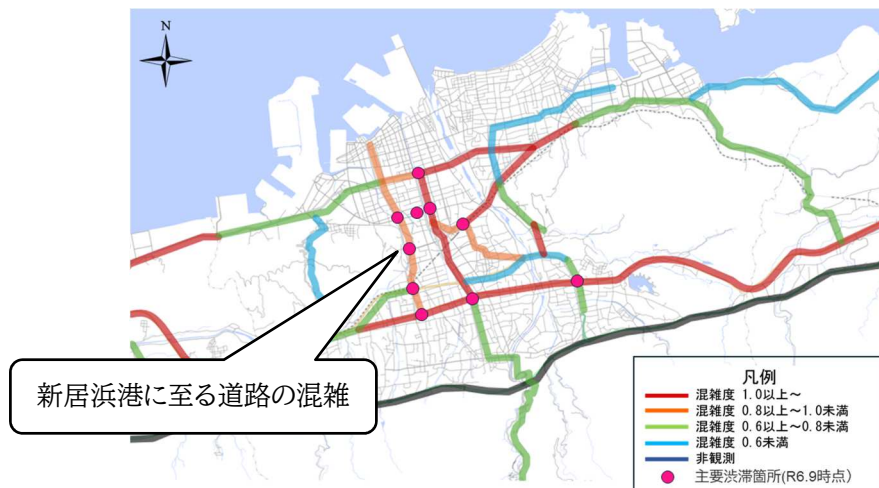
(3) 【課題③】港湾物流ネットワークの連携不足

◆背景

- 新居浜港は四国の瀬戸内海側の中央部に位置し、高速道路(松山自動車道)に近接し、新居浜ICが近くにあることから、四国地域内から広域的な集貨が可能。
- 高速道路から新居浜港まで接続する道路は混雑箇所が存在しており、トラック物流に影響を与えている。
- 本港地区-東港地区間の道路は狭隘かつ、港湾物流ネットワークの連携が不足している。

◆課題

- 製品の出荷や材料の搬入に利用する道路は混雑箇所の存在や、狭隘な個所があり、物流輸送に多大な影響がある。



出典：国土交通省「令和3年度全国道路・街路情勢調査」

地図：地理院地図 Vector(国土地理院)をもとに新居浜港務局作成

図 6.5 臨港地域と背後圏の課題



図 6.6 新居浜市内の道路（新居浜市役所前）

(4) 【課題④】産業構造の変化への対応

◆背景

- 日本の経済成長を実現するため、日本成長戦略本部のもと、成長戦略に関する重点的に投資されるべき産業が掲げられ、民間投資費用の増大が期待される。



◆課題

- 重点的な投資によって産業構造が変化することで、取り扱われる貨物が増えることが想定される。
- こうした産業構造の変化に対応した港湾機能の強化・集積を図ることが必要。

表 6.2 17分野の重点投資対象

AI・半導体	造船
量子	合成生物学・バイオ
航空・宇宙	デジタル・サイバーセキュリティー
コンテンツ(ゲームやアニメ産業等)	フードテック(食品開発など)
資源・エネルギー安全保障・GX	防災・国土強靱化
創薬・先端医療	フュージョンエネルギー(核融合)
マテリアル(重要鉱物・部素材)	港湾ロジスティクス(物流)
防衛産業	情報通信
海洋	-



出典:経済産業省『『経済産業政策の新機軸』第4次中間整理について』(令和7年7月)

図 6.7 民間企業設備投資額の推移と官民目標

(5) 【課題⑤】港湾物流倉庫や企業誘致のための産業用地の不足

◆背景

- 第六次新居浜市長期総合計画をはじめ、新居浜市では、ものづくりにおける人材育成や企業誘致が推奨されている。
- 一方、新居浜市内で整備されていた事業用地は令和元年度に完売して以降、空きがなく、市街地における用地の確保が困難となっている。
- 産業構造の変化によって様々な貨物需要が生じる中で、複数の事業者から倉庫や蔵置場所等の不足に関する声が上がっている。

◆課題

- 産業立地の促進、地域産業の発展を図っていく上で、企業のニーズに対応できる用地や倉庫等のインフラ整備が進んでおらず、港湾物流や企業活動に支障をきたす恐れがある。

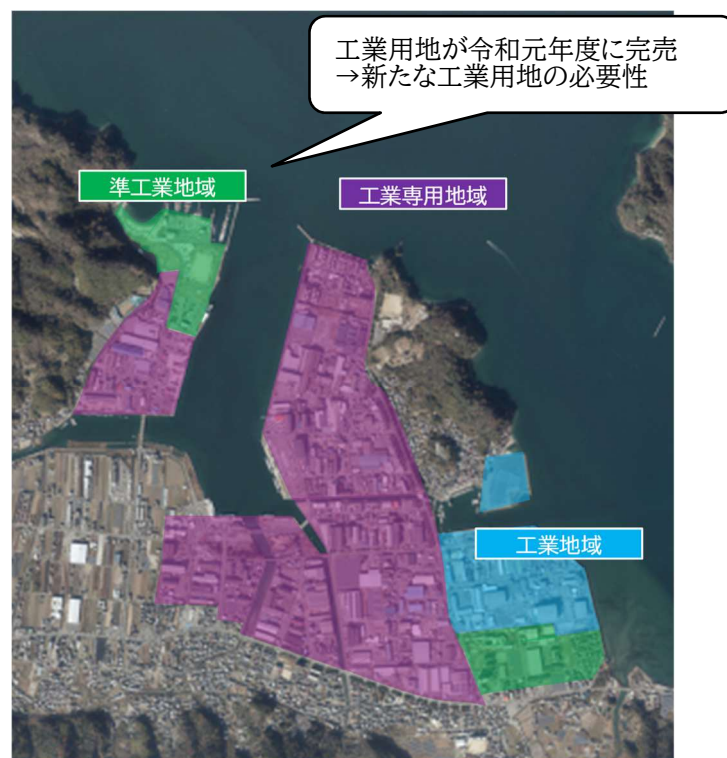


図 6.8 用途地域図

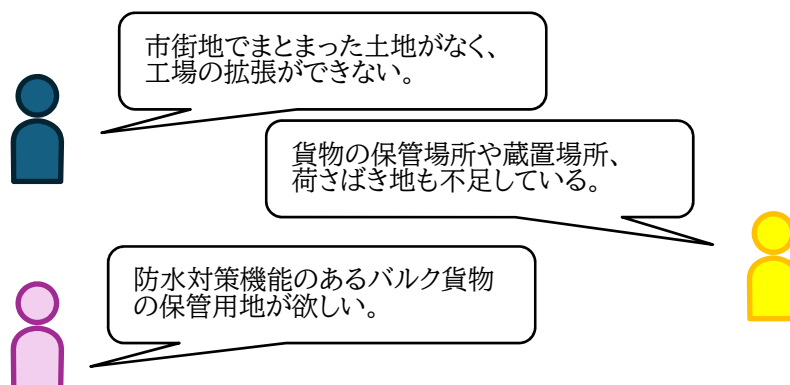


図 6.9 用地不足に関する主な意見（企業ヒアリングより）

(6) 【課題⑥】デジタル技術の活用への対応

◆背景

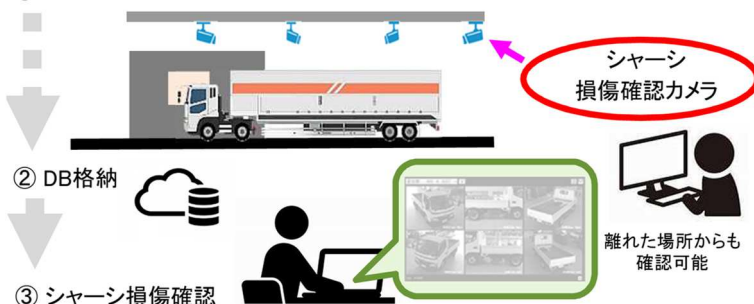
- 生産年齢人口の減少と港湾労働者の高齢化が進展し、トラックドライバーや港湾労働者の将来的な担い手不足が懸念され、物流に大きな影響が生じると考えられる。
- AIやIoTなどの革新的なデジタル技術の進展に伴い、港湾分野においても、物流の生産性向上はもとより、港湾を取り巻く様々な社会的課題の解決手段として、デジタル技術を活用する動きが加速している。

◆課題

- 担い手不足が懸念される中で、省力化・高効率化の実現に向けたDXが推進されている一方で、デジタル技術を活用した取組が進んでいない。

【カメラによるシャーシのゲート出入り管理・損傷確認】

① 到着時、シャーシ画像を自動撮影

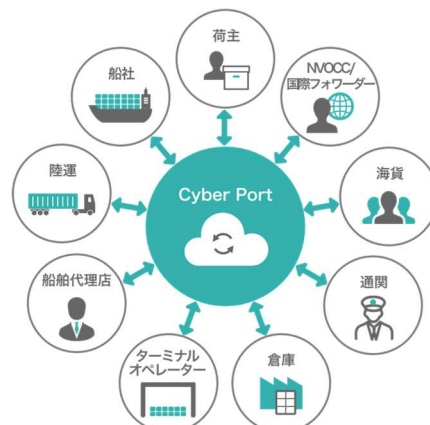


【シャーシ位置の管理システム】



出典：国土交通省「次世代高規格ユニットロードターミナル検討会 資料」（令和5年2月）

図 6.10 デジタル技術を活用した港湾の生産性向上に向けた活用例



出典：Cyber Port「サイバーポートとは」

図 6.11 サイバーポートの概念図

(7) 【課題⑦】港湾労働者不足や労働環境の改善への対応

◆背景

- 日本における労働人口は減少傾向にある。そうした中で、港湾労働者は求人倍率が年々高くなっており、慢性的な人手不足の状況にある。
- トラックドライバーの労働時間が規制される中で、海上輸送へのモーダルシフトが進展することが見込まれる。

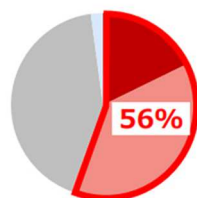


◆課題

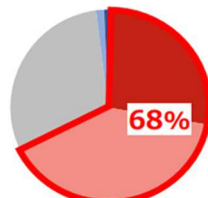
- 海上輸送の需要増加に対応するための港湾労働者の確保が必要。

港湾労働者の不足状況

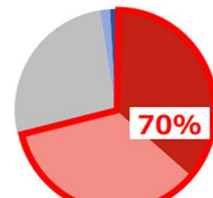
■不足 ■やや不足 ■普通 ■やや過剰 ■過剰



2019年度



2022年度



2026年度（見通し）

港湾運送事業の有効求人倍率



出典：国土交通省「港湾労働者不足対策等アクションプラン 2025」

図 6.12 港湾労働者の不足状況・港湾運送事業者の有効求人倍率

6.2 環境・エネルギーにおける課題

(1) 【課題⑧】脱炭素社会の実現に向けた次世代エネルギーへの転換・拡大への対応

◆背景

- 地球温暖化が進行する中、世界的に脱炭素に向けた取組が推進している。
- 工業港としての側面が強い新居浜港ではCO₂排出量が多く、次世代エネルギーの受入環境の構築や積極的な脱炭素化が推奨される。
- 新居浜港では、西日本で初めて港湾脱炭素化推進計画である「新居浜港・東予港(東港地区)港湾脱炭素化推進計画」が策定された。
- 新居浜港では従来からアンモニア等の次世代エネルギーの取扱実績があり、ノウハウが蓄積されている。

◆課題

- 将来的に、四国・西日本における次世代エネルギーや再生可能エネルギーの拠点化に向けた取組が必要。
- 次世代エネルギーは海外から大型船にて運搬することが想定されるが、新居浜港には大型船に対応した岸壁が整備されていない。また、貯蔵タンク等の施設を整備する用地が不足している。



出典：国土交通省「カーボンニュートラルポート(CNP)の形成」

図 6.13 カーボンニュートラルポートのイメージ

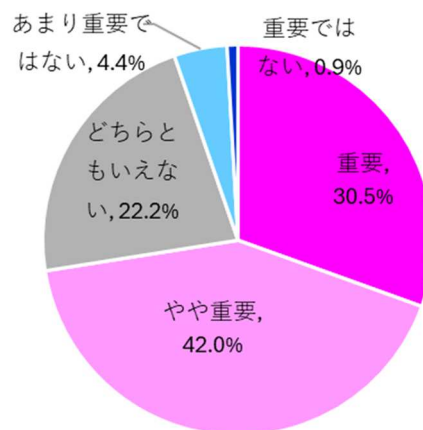
(2) 【課題⑨】豊かな自然環境と産業との両立

◆背景

- ・瀬戸内海は生物多様性に富む豊かな海域であり、沢津・垣生地区では漁業が営まれている。
- ・令和6年度に実施された住民アンケートによると、自然環境の豊かさは重要であると考えている住民は多い。
- ・工業港として発展してきた新居浜港では、活発な産業活動が求められる。

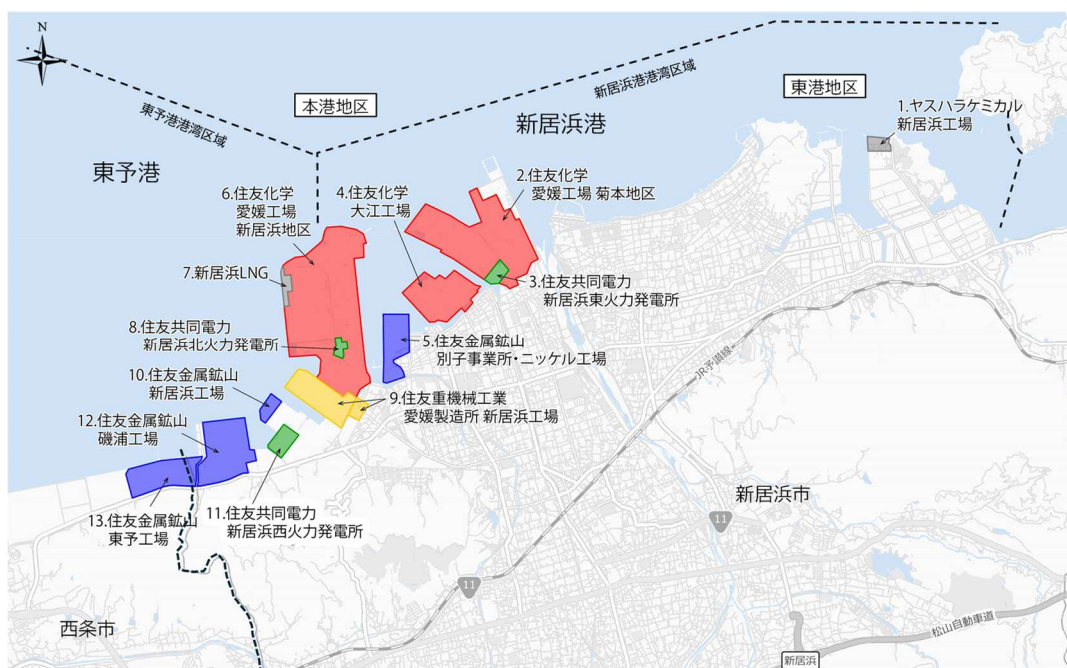
◆課題

- ・豊かな自然環境を保全しながら、適切な港湾利用を図ることが必要。



出典：令和6年度新居浜市民アンケート調査

図 6.14 海、山、河川などの自然環境の豊かさに対する重要性



出典：各企業 HP より作成、地図：地理院地図 Vector(国土地理院)をもとに新居浜港務局作成

図 6.15 市内臨海部の立地企業

6.3 観光・交流における課題

(1) 【課題⑩】自然・産業・歴史の地域資源を活用した賑わいの創出

◆背景

- 新居浜市では豊かな自然環境をはじめ、別子銅山等の産業・歴史遺産、みなとオアシスマリンパーク新居浜等、多種多様な観光資源が存在している。
- 新居浜市では産業遺産群や地域資源を活かした観光振興を促進している。

◆課題

- 新居浜市が有する既存の地域資源が十分に活用・認知されていないため、地域資源を有効活用し、港と背後地が連携し、新居浜市全体で賑わいの創出を図ることが必要。

【別子銅山記念館】



出典：一般社団法人 新居浜市観光物産協会

【みなとオアシスマリンパーク新居浜】



出典：新居浜港務局

図 6.16 新居浜市内の地域資源

(2) 【課題①】地元住民を中心とした来訪者の多様なニーズへの対応

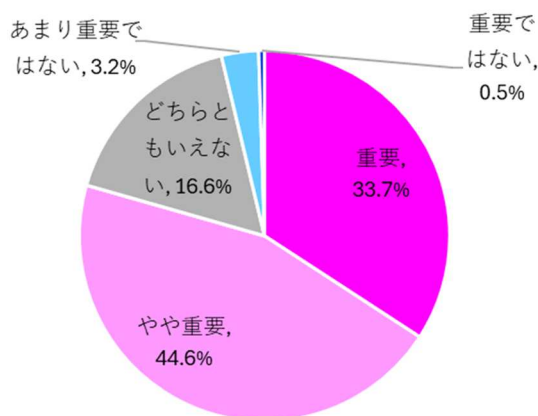
◆背景

- 令和6年度に実施された住民アンケートによると、身近な憩いの場の充実について重要と考える住民の割合は多い。
- クルーズ船需要の増加に伴うインバウンド観光客や国内観光需要の増加に伴う国内のシニア層等、様々な属性の来訪者が今後、多数訪れることが想定される。
- 四国におけるクルーズ船の入港数は増加傾向にあるものの、新居浜港の岸壁は水深が浅く、入港頻度は少ない。
- 国内ではプレジャーボート等の海上レクリエーションの受入拡大に向けた取組みが進行している。



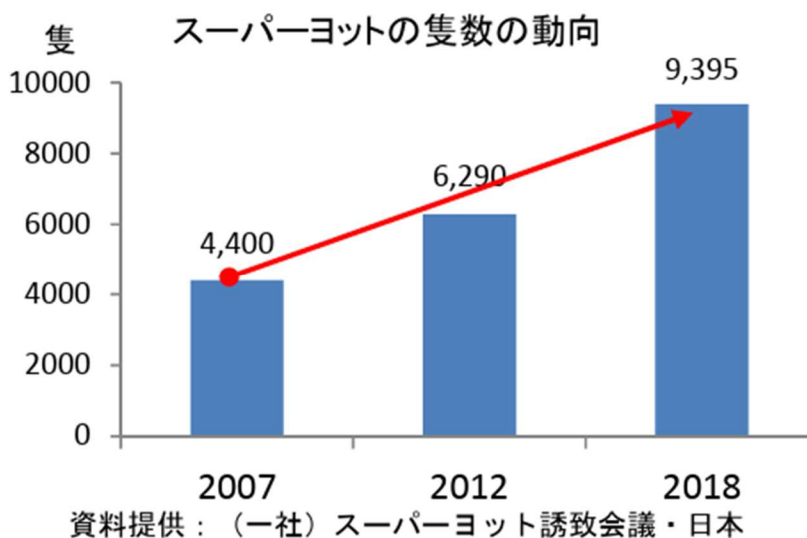
◆課題

- 様々な来訪者の増加が見込まれる中で、地元住民を中心に多様なニーズに応えていくことが必要。



出典：令和6年度新居浜市民アンケート調査

図 6.17 身近な憩いの場の充実に対する重要性



出典：国土交通省「スーパーヨットの概要」

図 6.18 日本国内の大型プレジャーボートの隻数の動向

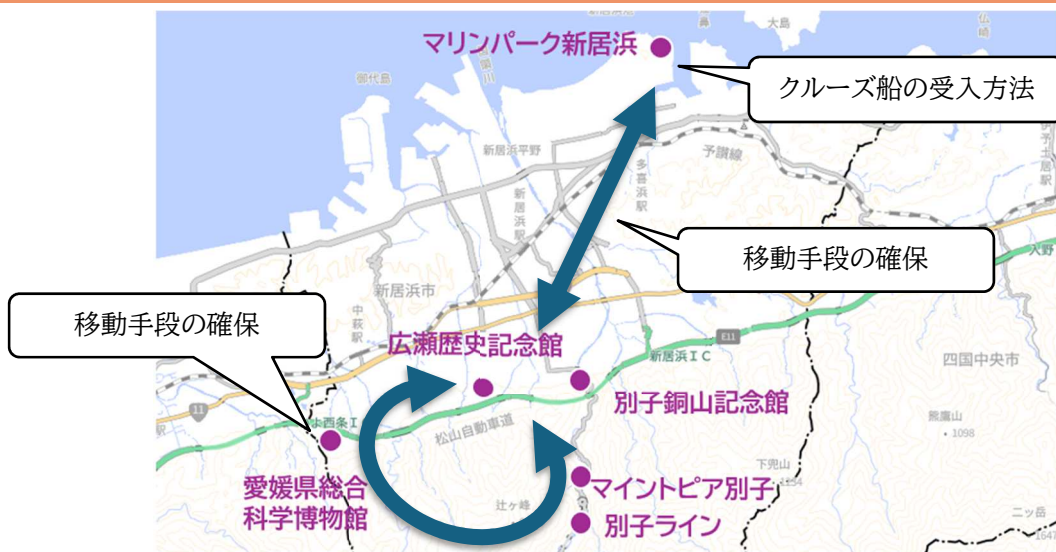
(3) 【課題⑫】国内外の観光需要に対応するための受入環境の整備

◆背景

- ・新居浜市内の観光施設は広範囲に立地している一方で、市内の移動手段が限られており、令和6年度に実施された住民アンケートにおける、公共交通手段に対する住民の満足度は高くない。
- ・国内外の観光客が訪れることが今後想定される中で、多言語への対応や情報発信が不足している。

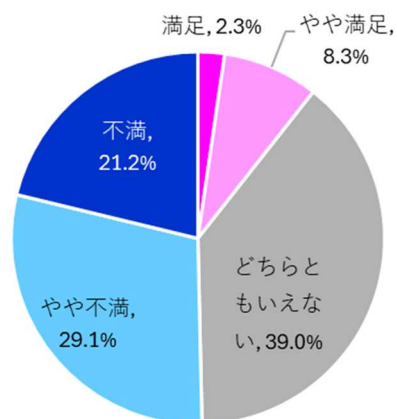
◆課題

- ・国内外からの来訪者の集客を図り、多様なニーズに対応していく必要がある中で、多言語対応や移動環境等、円滑な観光を支えるための環境整備が不十分である。



出典：地理院地図 Vector(国土地理院)をもとに新居浜港務局作成

図 6.19 新居浜市内の観光施設と課題



出典：令和6年度新居浜市民アンケート調査

図 6.20 公共交通の利便性に関する満足度

6.4 防災・維持管理における課題

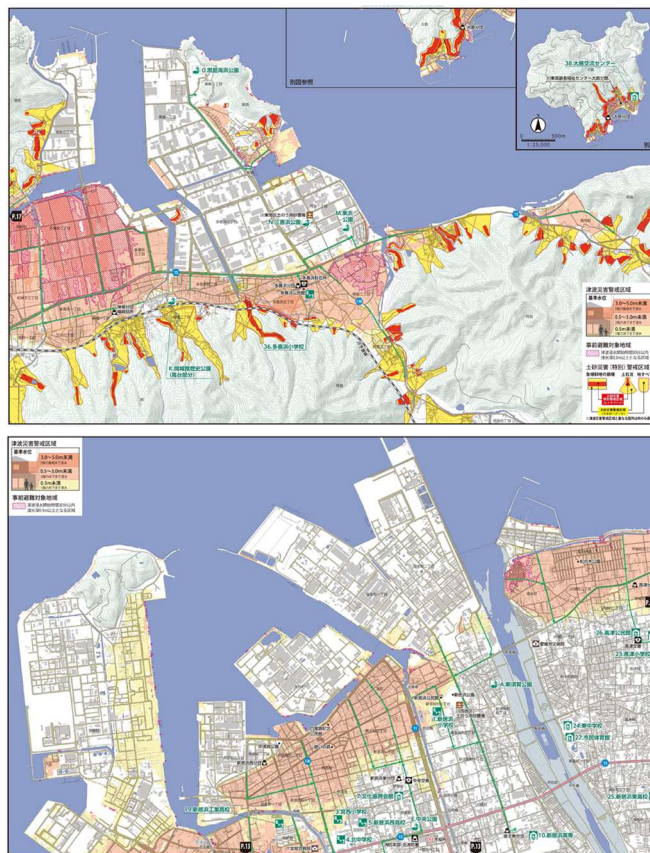
(1) 【課題⑬】切迫する大規模自然災害や気候変動への対応

◆背景

- 将来予想されている南海トラフ巨大地震において、一定程度の浸水被害が想定されている。
- 地球温暖化の影響で近年、海面が上昇しており、平常時においても護岸のかさ上げ等の浸水対策が推奨される。
- 新居浜港は地域の二次輸送拠点としての活用が期待されている。

◆課題

- 地域住民や新居浜港に関わる人々が安心して活動できるような環境整備が必要。



出典：新居浜市総合防災マップ(令和5年12月)

図 6.21 津波浸水想定図

(2) 【課題⑭】港湾施設の老朽化・陳腐化への対応

◆背景

- 新居浜港全域で港湾施設の老朽化が進み、建設年数50年を超える港湾施設が今後さらに増加していく。

◆課題

- 長期的な視点から、港湾施設の持続的な港湾運営・維持管理が必要。

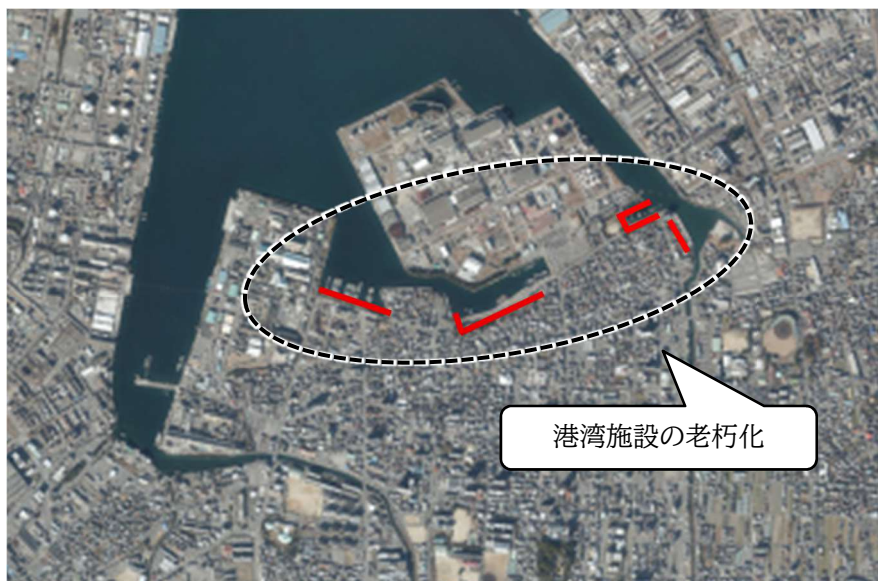
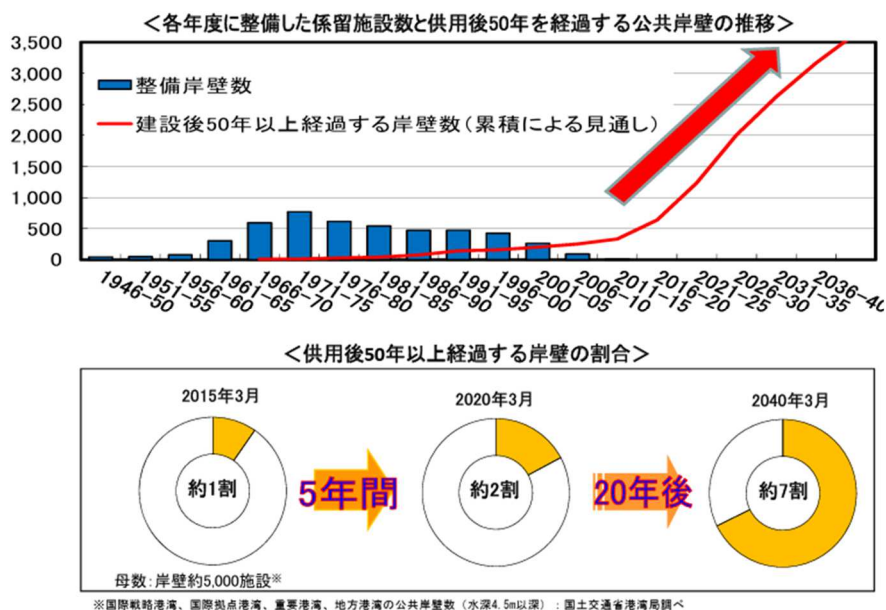


図 6.22 内港地区における港湾施設の老朽化



出典: 国土交通省「港湾施設の維持管理 実務技術者講習会 資料」(平成 27 年 4 月)

図 6.23 将来的な港湾施設の老朽化